明海大学不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第284回

下町と近代的ビルをつなぐ歩道橋

高い技術力と優しいデザイン

金子 信孝
不動産学部3年

【学生の目】

年号が令和に変わり、節目となる10連休のGWが終わって少し落ち着いた。平成生まれとしては寂しさもあり、時間の流れを感じるが、成人して令和を迎えることに大人としての自覚が高まる。

大阪に帰郷し、中学高校の旧友に会うため訪れた久し振りの天王寺で、初めてあべのハルカスの高層階に登った。通天閣よりも高いこともあり、素晴らしい景観を望むことができた。また、街が栄えている様子が手に取るように分かり、誇らしく感じた。

その中で、平成25年に完成し、これまでも度々通ってきた歩道橋が目にとまった（写真）。写真の歩道橋ができる前は、どこにでもある普通の歩道橋だった。場所柄、電車を乗り継ぐために多くの人が利用する歩道橋だったが、登る手段が階段しかなかった。幅広い年代層がひしめきあう中で、年配の方が辛そうに階段を登っているのをよく目にした。

新しい歩道橋は曲がりくねっていて、普通の歩道橋とは違うなとは思っていたが、上から見るとその奥深さに感銘を受けた。

第1に、歩道橋を上から見るとアルファベットのaの文字になっている。なるほど、阿倍野の頭文字のaだと納得する。

第2に、3基のエレベーターが備え付けられ、バリアフリー化を実現している。

第3に、少ない橋脚で大きな建造物を支えている。柱脚は周りのビル付近にあって目立たず、広幅員道路の交差点の見通しが確保されている。

第4は、変化のついた屋根の独創的なデザインだ。大小様々な三角形が組み合わされた屋根には光を透過する膜素材が採用され、夜はネオンなどの光によって立体的な姿を際立たせている。更に、その複雑な勾配を利用した排水・集水機能を持ち合わせている。第5は、白とグレーの色使いで歩道橋を宙に浮いたように見せている。まるで空に浮かぶ雲のようで軽やかだ。

第3、第4、第5を同時に可能にしているのは鉄骨のトラスだ。引張力が強い鉄の性質を利用して歩道をトラスで引き上げている。その結果、柱は最低限の本数に抑えながら、大きく、軽やかで美しい造形を実現している。

この歩道橋は高い技術力を有した構築物で、人に優しいデザインを持ち合わせている。高層ビルを建てるだけでなく、下町感の漂う阿倍野から近未来的な都市づくりを進めていく天王寺・阿倍野地区の象徴としてふさわしいと感じる。

【教員のコメント】

安全な横断に機能的とされ昭和40年代に多く建設された歩道橋が、超高齢社会では非人道的に、合理的な構造とされた巨大な鉄橋が、デザインの優劣がシティプライドを左右する今は重々しい鉄の塊に映る。風や光を感じる設計が新時代を示す。

aの文字を描く独創的なデザインの歩道橋